

わたしのまちづくり

「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。



ネクスボ
NEXPO (長久手・万博継承会)
事務局長 岩淵準さん(写真左)
副代表 駒村和廣さん(写真右)

今回は、万博の理念を継承して活動をすすめるボランティア団体「NEXPO(長久手・万博継承会)」で、市内の環境保全を目的とした事業を中心に取り組む、事務局長の岩淵準さんと副代表の駒村和廣さんにお話を伺いました。

情報課職員(以下「情」)：はじめに、NEXPO(長久手・万博継承会)(以下「NEXPO」)について教えてください。

NEXPO：NEXPOは、2005年の万博開催時に来場者向けに組織された「長久手・万博おもてなしボランティア」がその役割を終えた後に、リニモ1周年記念イベントを期に有志を集い、活動を開始しました。活動中に発生するエラーやミスを、「ええじゃないか」を合言葉に温かく見守りつつ、活動へは会員の自由な参加を原則に事業を進めています。

情：NEXPOにはいくつかの部会があるそうですねですが、お二人は特に環境保全活動に力を入れて取り組まれていますね。

NEXPO：はい。NEXPOには現在、環境・美化部会、駅周辺の美化活動などを行うリニモ部会、市内のまつりの支援活動などを行うイベント部会があります。万博の理念である「自然の叡智」を継承した団体なので、どの部会活動も環境に結びつくものが多く、実際の活動は部会を超えて組織全体で取り組んでいます。

情：団体内でいろいろな人と交流できる点も魅力の一つですね。具体的にはどのような活動をしていますか。

NEXPO：市内の水や緑の保全を目的とした「杵ヶ

池プロジェクト」事業を実施しています。毎月1回の池の水質調査、外来種アカミミガメなどの駆除、貴重種マメナシの植樹と保全のほか、学校や公共施設への植名板の取り付けや、杵ヶ池公園への植樹など、さまざまな活動を行っています。これらの活動は四半期に1度発行される「杵ヶ池かわら版」というチラシをイベント時に配布したり、南小校区共生ステーションに置くなどして発信しています。現在はコロナ禍のため中止していますが、市と協働でリニモの駅のコンコースに小学生の絵や書道を展示した「リニモギャラリー」では、多くの人に活動を知っていただける機会となりました。

NEXPO：昔は家の周りの側溝には蓋がなかったのですが、まち全体で掃除する光景をよく目にしました。今は隣近所の関わりあいが増えてきたように感じます。まずは自分の家の周りを見渡し、ごみ拾いやあい

情：市民のみなさんへメッセージをお願いします。

袋が集まったときは、目に見える成果があるので楽しく続けられています。杵ヶ池周辺の環境保全活動は、今後はマイクロープラスチック問題や地球温暖化に対しても、私たちが一助となれるような活動として積極的に進めていきたいですね。

情：学校と協力して行った樹名板の取り付けや植樹は、子ども達が身の回りの自然に関心を持つきっかけになったと思います。お二人はもともと環境問題に興味があったのですか。

NEXPO：私たちを含め、団体に参加するまで環境活動にあまり縁がなかった会員も多くなります。私たちは、NEXPOの生みの親である前事務局長の石川文三さん(いしかわぶんぞう)さんに誘われて参加することになりました。なんとなく始めた活動でも、植樹したマメナシが花を咲かせた姿や、清掃活動で多くのごみ



▲「わたしのまちづくり」インタビューの様子



▲杵ヶ池の水質調査の様子

「Weeklyながくて」でもNEXPO(長久手・万博継承会)の活動の様子を取材しています。▶

